えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会　報　第47号	２００５年6月２３日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原　一誠

1. 活動報告（事務局　記）

― ５月２８日（土）午前中ファミリーサポートセンター行事の一環として宇部市１１校区の子どもさんと保護者約８０名昭和山遊ロード二俣瀬経由と小さいお子さんは直接ビオトープに見学されました。幸いメダカもたくさん孵化し､おたまじゃくしやカエル魚をおっかけまわして元気に遊んでおられました。はじめの説明は今井会長がされ案内者は、田村、北村、寺森、藤村、原田でおこないました。

― ５月２８日（土）樹木・環境ネットワーク協会のグリーンセイバー資格者のビオトープ見学会が行われました。２０名の方が話し合いの後で美濃和･潮村･西原会員の説明でビオトープを見学されました。

― ６月４日(土)「きららネット子どもエコクラブ」（会長　西村博明）の行事として子どもさん１１人、スタッフ１５名のビオトープ見学がありました。当会より西原会員と美濃和会員による案内と説明がありました。尚　５月に入会された、西村靖子会員が子どもエコクラブの会員としても活動されていました。

― ６月５日（日）本日の活動は１１名と二俣瀬地区の農繁期に伴い少ない参加でした。その中で、蓮田のアサザの間引き作業。田んぼ西の通路階段安全柵の取替え、湿地帯や草原内の川の黄菖蒲の除去。水車部のシガラ補修、駐車場の草焼きを行ないました。

― ６月１０日（金）善和園の皆様の草刈り作業奉仕がありました。生徒さん１３名　石田係長ほか7名の先生方合計２１名の方によるビオトープ全般の草刈りが完了しました。あとは田植えまちです。

― ６月１０日（金）ヤクルト佐賀本社から佐野工場長、設備管理部井田さん合計８名の御見学がありました。田村、西原両会員による説明案内をしていただきました。工場でもビオトープの管理に役立って戴けたらと思います。

― ６月１８日（土）田植えがすみました。朝9時１５分から約1時間で植えこみです。参加者は　二俣瀬子ども会１２名及び保護者、里山自然観察隊8名及び保護者、ファミリサポートセンタより８名、会員２６名、ほかふれあいセンター、小学校先生方、幼児も含め合計約８０名でした。秋の収穫を楽しみに泥んこになって植えました。

― ６月１８日（土）午後からは「里山自然観察隊」の昆虫でしたが参加者は隊員２２名、保護者18名、指導者会員８名でした。特にトンボは原副会長、蝶々は藤井会員の専門的な説明も有り充実した内容で楽しい観察になりました。

2．今後の予定（事務局　記）

◎　見学者

― ８月１１日　宇部市環境共生課主催例年の　「水辺の教室」があります。案内担当募集します。

◎　行事

― ７月３日（第一日曜日）の活動　作業(片付け湿地帯横コンクリート、止水池横抜いた草)

― ７月１６日（第三土曜日）の活動　午前：作業(田んぼの草取り、清瀬峡の清掃)

午後：里山自然観察隊

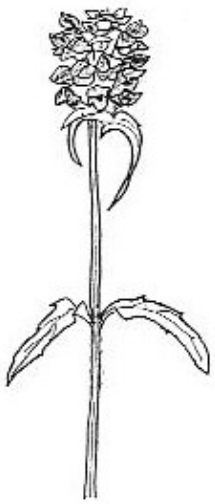
３．ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物）　美濃和　信孝

オカトラノオとウツボグサ

今年の6月は梅雨とも思えない晴天の日が続いています。 草花の少ないこの梅雨時期ですが、白い花を群生するので、あればすぐ目立つのがこのオカトラノオです。先日の観察隊の折に、須賀河内川の昭和山への登り口の左岸に5株ほど咲いているのが見つかりました。今年はずっと晴れなのでそんな感じはありませんが、例年の梅雨時の暗い空のもとでは、そこだけ白く明るく映えて見えるような草花です。白い花序を虎の尾に見立ててトラノオ、乾いたところに生えるのでオカトラノオです。他に同じ仲間で、湿ったところに生えるヌマトラノオというのがあります。サクラソウ科の植物で、一見するとどこがサクラソウか、という感じですが、小花をよく見るとサクラソウそのものです。サクラが5枚の離弁花であるのに対し、サクラソウは筒状で先が5つに割れた合弁花です。花が終わって花が落ちるときは、筒状の花弁のまま落ちます。ひらひらと花吹雪にはならないところがサクラとは違うところです。

ウツボグサは道の脇などにたくさん群生している紫色の草花です。良く管理されたシバが生えているようなところに相性が良いようで、ビオトープ内でもたくさん見ることができます。シソ科の植物なので一つ一つの花は唇弁花で、長さ３～８ｃｍの花穂をつくり、下から順次花を咲かせていきます。茎は他のシソ科の植物と同じように断面は四角で、葉は対生しています。花序もよく見ると基本は四角形で、１つの苞葉に３つの花が咲くので、上から見ると合計12の花を数えることができます。和名のウツボとは、花穂を矢を入れる「うつぼ」に見立てたものです。ウツボグサの花は、６月に咲きますが、夏には花穂のみが枯れたように褐色に変わります。 そのため夏枯草（カゴソウ）の名前が付けられています。８月初旬、花穂が褐色になり始めたころ、花穂のみを採取して日干しにして、よく乾燥させると、生薬の夏枯草となります。夏枯草は、消炎性の利尿剤として腎臓炎、膀胱炎、外用には口内炎、へんとう炎、結膜炎などに効果があるとされます。

オカトラノオ（サクラソウ科）



ウツボグサ（シソ科）

４．ビオトープ関連　（会員の声）　「散策記」　（寺森正行　記）

５月１６日散策

コウホネに続きヒツジクサ、アサザも咲き始めました。足元には外来種のシロツメクサ、ニワセョウなどが，大きな顔をして占拠していますが、黄色いオヘビイチゴもがんばって地を這っています（オヘビイチゴはイチゴ名がついていますがキジムシロ属で赤い実はなりません)。ヘビイチゴの濃紅色の実も見られ食べたくなりますがおいしくありません（一度ためしてみてください)。鳥の鳴き声はやかましいヒヨドリぐらいで静かなものです。

観察した鳥はセグロセキレイ、ダイサギ、メジロ、ウグイス、ヒバリ、スズメ，ヤマゲラ、アオゲラ、トビ、ハシボソカラス、カワラヒワ、ホオジョロ、ツバメ、キビタキ、シジュウカラ(ほとんどは鳴き声にて確認)。

６月８日散策

托卵を企むホトトギスの鳴き声を聞きながら昭和山経由で散策しました。目的の草花は芳しくなく、タイツリスゲとナギナタガヤが目立つ程度。樹木については全く知識がありませんので目に付きません。それでも白い帽子を広げた山法師やヤマツツジの赤い花も点々と目立ちます。おなじ白い花でも控えめなイボタノ木、ネジキ、木いちごの仲間のノイバラ、ヤブイバラ、テリハノイバラを見ました。それからナガハモミジイチゴの黄色い実もたくさんありました。

ビオトープでは小さなトウバケ、コモチマンネングサ、ミゾカクシが地面に広がっています。最後に先日来狙っていました桑の実を１つ試食しました。小粒ですが美味しいです。

次回は　車地の女性　会員にリレーします。宜しく

５．来訪者の声　（東屋のノートより一部抜粋）

― ５月２８日　楽しいビオトープに又来ました。虫さん元気?又来ます　**西宇部小４年　山本依璃那**

― ５月２９日　名前は聞いていましたが始めてきましたトンボの写真を撮って帰ります。自然をいつまでも残して欲しいです。管理ご苦労様です。　**宇部市東岐波　K・U**

― ６月３日　初めてきました。今日はとても暑い日ですが心が落ち着きました。蓮田の黄色い花は何でしょうか?　**市内の人間二人と犬一匹**

― ６月５日　今日逆周りで男岳方面を目指しましたが新幹線の見える一里塚所でギブアップ。涼しい風が最高です。　**無記名**

― ６月５日　折り目のページのよう子ちゃん，良かったね。水車が本来の逆に回ったりしていて見てい不思議でした。風が強いのと、水が落ちてくる量が少ないのが原因らしいと思ったりしています。沢山の植物の写真を撮りました。楽しいです。（今日で２回目です）　**無記名**

日付無記入　私は田舎の空気が大好きです。でもこういう所を一人で歩いているとすごく人恋しくなってきます。田んぼのカエルの鳴き声がケエレ　ケエレ(帰れ,帰れ)ときこえてきます。それに向かいにある「えんぽとたんぽの始発駅」と書いてあるけど「えんぽとたんぽ」ってなんですか　**無記名**

― ６月１５日　昨日も訪れたんですけど、今日も来ました。私は今、大学４年で卒業研究をしている最中です。実は、このあたりが卒業研究の調査範囲で山に入ったりして地質の調査を行なっています。今度それらしき人がいたら気軽に声をかけてください！毎日のように山に来てるんですがよく木を伐採しているのを見かけます。なんだかすがい嫌な感じがします。ここはそんな場所とは違っていても良いと思います。

私たちはこの自然によって生かされているようなものなのですからもっと自然を大切にしないといけないと思います。人間には家があります。しかし虫や猪などの生物は自然が壊されると家がなくなってしまいます。そういう人間の心配りも大事なのではないでしょうか?最近は山に入りすぎ

て､人が恋しくなりとてもさびしいものでした｡しかしこういう場所は心を安らげ人々にとっても、虫たちの生物にとってもかけがえのないものだと思いました。最近嫌なことがあって気落ちしていたのですが、今自分でこうして書いていることをきっかけに、頑張ってみようと思います。行事にも前向きに行こうと思います。そして又、一年前の自分の言葉を読み直して、又新にやってやっていけたらと思っています。長々すみませんでした。　　**山口大学４年　Ｉ・A**

日付無記入　今日たのしく遊びました。目がいたい人がいたけどおじさんの水で洗ってきれいになりましたやごやら、びっかんじょ(熊本弁でカエル)やらおりました。たんぼにおたまじゃくしが大きいのとかスモーラーなのがいました。　　その他挿絵がありました残念ですが**無記名**です

―　６月１８日　つまらなかった。デモフツウノタノシミダッタ。バッタやトンボもいた。にちようびはきっといいことがあるとおもう。いっぱいカエルがいた。でもちょびたのしかった。**よしだけいご**

きょうはとてもたのしかったです。きょうがこんなにたのしかったなんておもいませんでした

ようこ

―　６月１９日　昨日田植えをしました。今日は暑いけど気持ちはいいです。昨日も今日もお母さんがお弁当を作ってくれました。美味しかったです。　　**西宇部小４年　山本依璃那**

―　６月１９日　ノートを入れる棚を作ってくださって有難うございました。　　**無記名**

※　西原会員が作ってくださいました。

―　６月１９日　２０名の参加でした。お世話になりました。　　**宇部ネイチャーゲームの会**

―　６月２０日　メダカをたくさんとって楽しかった。宇部もこんなところがあるんだなーと思った。またまた来たいな～　　**N・M&Y・M**

６．会よりの連絡事項

１）退会者のお知らせ　５月 21 日現在

戸坂隆男さん　仕事の関係で活動に参加できないとの事

上山智子さん　身体の都合で会の行事に手助けが出来ないとの事

今本幸江さん　他の習いものとかさなって参加が思うようにならないとの事

長い間の会発展のためご尽力をいただきましたこと御礼を申し上げます。

２)訂正ご紹介

宇部市環境部の矢野会員が転任のため退会と会報４６号で報告しましたが当方の間違いでしたが消防署所長に転任になっても引き続いて会員として参加するとの返事をいただきました。

７．編集後記

リレー随筆が行き止りましたので寺森会員の記帳ノートより専門的な散策記録を載せていただきました｡会員の皆様がそれぞれ意見なり気付きなりちょっとしたことでよいのでメモって下さればいいと思います。今後を期待したいと思います。

今月の｢里山自然観察隊｣に参加してわれわれの活動に不合理を感じた。それは生きもの再生を目的として、木々の植栽、近辺の生きもの移植をしてきました。ところが観察隊での隊員の篭のなかではトンボ、蝶々、甲虫類の虫たちが、逃げよう、生き延びようとして喘いでいる。自然の大切さを教えるなかでいったいこれはなんだろうと思う。ただの虫けらか?　　みんなで考えよう。

(原田　満洲夫　記)